

# 様々な方法で、 ユニセフ募金に協力!

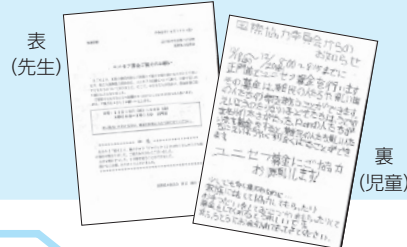
ユニセフ募金は、世界の同じ世代の仲間たちのために、みなさんができる大切な活動のひとつです。募金活動を通じて、世界の子もたちが直面する課題を知ってもらったり、活動に共感をもってもらったりできれば、さらに協力の輪が広がります。みなさんの取り組みは、世界を変える一歩になります!

## ● 校内・校外での募金活動

- ✓ 校内で活動する場合にも、**保護者や地域のみなさんにもご理解いただき、協力してもらえよう働きかけ**を考えてみましょう。
- ✓ 校外に出て一般の皆さんに協力を呼びかける**街頭募金活動**は、大きな協力を集められるだけでなく、多くの学びにつながる方法です。(➡P.11「街頭募金活動のすすめ」)
- ✓ **募金箱や呼びかけポスター、ありがとうチラシなどの活動ツール**を工夫して作るとモチベーションが高まります。
- ✓ 『〇〇(支援物資)が△個は買えるよう、□□円を目標に呼びかけよう』など、**目標を決めて取り組む**と、成果がわかりやすくなり、活動の振り返りや報告にも役立ちます。
- ✓ 運動会、学習発表会などの催事の際に活動することも効果的です。

### Tip! 先生・児童で協力して作ったお便り「ユニセフ募金ご協力のお願い」を配布

大井第一小学校では、ユニセフ募金を始める前に、保護者にお便りを配ります。国際協力委員会が、そのお便りの裏に、世界にはどんなことに困っている子どもがいるのか、ユニセフ募金がどのように役立てられているのか調べたことを書いて、募金のお願いをしています。  
(品川区立大井第一小学校 国際協力委員児童)



## ● バザー、フリーマーケットなど物販を通じて

**中古品や未使用品、地域の特産品、自分たちで育てた農産物や工夫して作ったものなどを売る**バザーやフリーマーケットを開いてみましょう。売り上げをユニセフに寄付することを伝えながら活動します。募金箱を置いてみたり、学習の成果を展示したりしながら実施することも効果的です。外部からの訪問者が多い**文化祭・学園祭**は、こうした活動の絶好の機会になります。(右ページの「文化祭ユニセフセット」をご活用ください!)

## ● リサイクル活動と連携して

**缶やびん、ペットボトル、古新聞、ダンボール、牛乳パック、インクカートリッジ**など、リサイクル事業者が対価を払って引き取ってくれる場合がありますので、売り上げを募金にすることができます。**書き損じはがきや未使用の切手**は郵便局で1枚5円の手数料で新しいはがきや切手に交換することができます。新しいはがきや切手を周囲の方や取扱店で買い取ってもらえれば、その代金を募金にすることができます。

## ● PTA活動と連携して

PTAで行われているバザーやお楽しみ会等、様々な活動をユニセフ支援につなげてみませんか。募金活動の前に、家庭教育学級や親子教室、講演会でユニセフ教室(➡P.23「講師派遣・オンライン授業」)を開催するなど、児童・生徒、地域と一緒に、世界の子もたちの幸せや世界の課題に目を向けるきっかけにもなります。

### Tip! ユニセフ学校募金の始まりは、日本の子どもたちから

世界の子もたちを支えるユニセフ募金。1949年から1964年(1回目の東京オリンピックが開かれた年)まで、日本の子どもたちもユニセフからの支援を受けていました。日本におけるユニセフ募金は、そんな子どもたちが「今度は自分たちができることをしよう」と呼びかけたところから始まりました。日本でのユニセフ学校募金は、2020年度で65周年。今も、日本の子どもたちと世界の子もたちをつなぎ続けています。

